

第23回 ちゅうでん教育振興助成（2023年度）

小・中学校の部 報告書資料

学校名・団体名	伊丹市立鴻池小学校
コース	学校支援コース
活動・研究のテーマ	本物に触れる体験活動と児童のSDGsへの興味・関心
<p>〈活動・研究の意義および活動報告〉</p> <p>1. 本実践における研究の目的</p> <p>本校では、「失敗を恐れず、まずはやってみよう。」をキャッチコピーとし主体性を持って学級及び学校づくりに児童自身が参画しようとする児童の育成に全学級で取り組んでいるところである。また、各教科や教育活動等を繋げながら、課題解決学習にも取り組んでいる。本実践では、5年生から始まる探究学習に向け、4年生時から本物に触れる体験的な活動を通して多様な社会課題に気づき、それを自分事としてその解決に取り組もうとする資質能力を育成することが目的とした。</p> <p>2. 活動実施内容</p> <p>(1) 対象者 伊丹市立鴻池小学校の4年生 3学級、授業及び調査に参加する対象児童は100名。</p> <p>(2) 活動実施内容</p> <p>① 「環境」に関する社会課題（本実践で目指すSDGs…「6 安全な水とトイレを世界中に」、「15 陸の豊かさも守ろう」）</p> <p>5月から社会科で「ごみのしまつと水の活用」について学習した後、6月5日にサントリーが行う出張授業への参加及び7月10日に大阪府豊中市にある下水道原田処理場での社会見学を行った。地球上にある水資源の事実を知ることを通して水や水を育む森の大切さを学んだ。</p> <p>12月15日には中南米やアジア等にある外国の農家とつながりを持つチョコレート店「farmers chocolate Odalis」の社長を講師として招きカカオの豆の採取方法や栽培方法また歴史等を学んだ後、カカオ豆からチョコレートづくりをする体験を行った。本活動を通して普段食べているチョコレートとの比較やカカオ豆の産地によっても味や匂いが違うこと、作る過程における工夫等、五感を通して体験することができた。また、講師からカカオの木を育てるにも地球環境を考慮して栽培していること、また育てている国によっては児童労働が問題になっていること等も知る機会となった。さらには講師がネパールに滞在中の12月25日にはインターネット動画を通して教室とつなぎ、リアルタイムで町の動画と講師の解説による交流（1学級のみ）を行った。児童は国の交通事情や水事情、また現地の人の様子等を知ることができた。</p> <p>なお、7月5日にはタイにあるプーケットの日本人補習校から2名の児童が体験入学をしており、そこでもタイの国事情について児童は2名からの発表を通して学んでいる（1学級のみ）。また、帰国後も数回のビデオレター交流を通して関係を築いているところである。日本国外とつながりを持つことで、児童が日本だけではなく、世界の国々にも興味を持つ機会になったと考える。</p>	

② 「安全」に関する社会課題（本実践で目指す SDGs…「11 住み続けられるまちづくりを」、「3 すべての人に健康と福祉を」）

10月25日に兵庫県神戸市にある人と防災未来センターへ行き、阪神淡路大震災の被害状況が分かる展示や被災者の体験談や教訓を聞くことを通して防災や減災への意識を高める機会とした。また、10月27日には兵庫県広域防災センターから2名の講師を招き、自分の住んでいる地域の過去の災害について学び、その後ハザードマップを確認しながらもし大きな自然災害が起きた場合の安全な場所や避難経路等の確認を行った。社会見学で得た教訓を生かし、出前授業を通して防災や減災について自分事として考える機会となった。

③ 「福祉」に関する社会問題（本実践で目指す SDGs…「3 すべての人に健康と福祉を」、「10 人や国の不平等をなくそう」）

一人で車イスに乗って移動したり、アイマスクをしたまま白杖を用いて歩行したりすることを通して障がい者が生活していく中で困ることや役に立つもの等について体感する活動を行った。また、2月27日には実際に車イスで生活をしている東京パラリンピック車いすバスケットボール日本代表の北間優衣選手による講演を聞いたり、車イスバスケット体験をしたりすることを通して、共生社会の実現に向けた障がい者理解について深く考えることができた。他にも、東京パラリンピックの競技でも話題となったボッチャやウッドスティックといった年齢、性別、体力等に関係なく誰とでも楽しめるパラスポーツ体験等を通して、障がいの有無に関わらず共に生きていける社会を積極的に創っていこうとする実践的意欲及び態度を育ませることができた。



写真1 カカオ豆を砕いたものを味見する



写真2 プーケット日本人補習校生の発表



写真3 人と防災未来センターへ見学



写真4 車イス体験



写真5 地域の安全な場所を探す



写真6 北間優衣選手の講話

4. 子ども達への効果

五感を通して体得できる「直接体験」活動を通して、児童は多様な社会課題があることに気付き、それらについて興味・関心を持つ良い機会となった。また、各教科や教育活動等における学びや日常生活での自身の経験等と結び付けながら、自分事として課題をどのように解決していくかを考えようとする実践意欲及び態度を育ませることができると考える。この教育活動を通して他者や社会との関わりを通して自分の進むべき道や方向性、あり方を探っていくきっかけとしたい。



写真7 ボッチャ体験